

【雪などによる転倒に係る救急統計について】

これから寒さが本格化し、積雪や路面の凍結に起因する転倒事故が増加すると予想されることから、注意喚起を図るために郡山地方広域消防組合管内における過去の救急統計を分析しました。

過去5年間（2015年から2019年まで）に本組合管内で、243人が雪や路面の凍結による転倒で救急搬送されました。

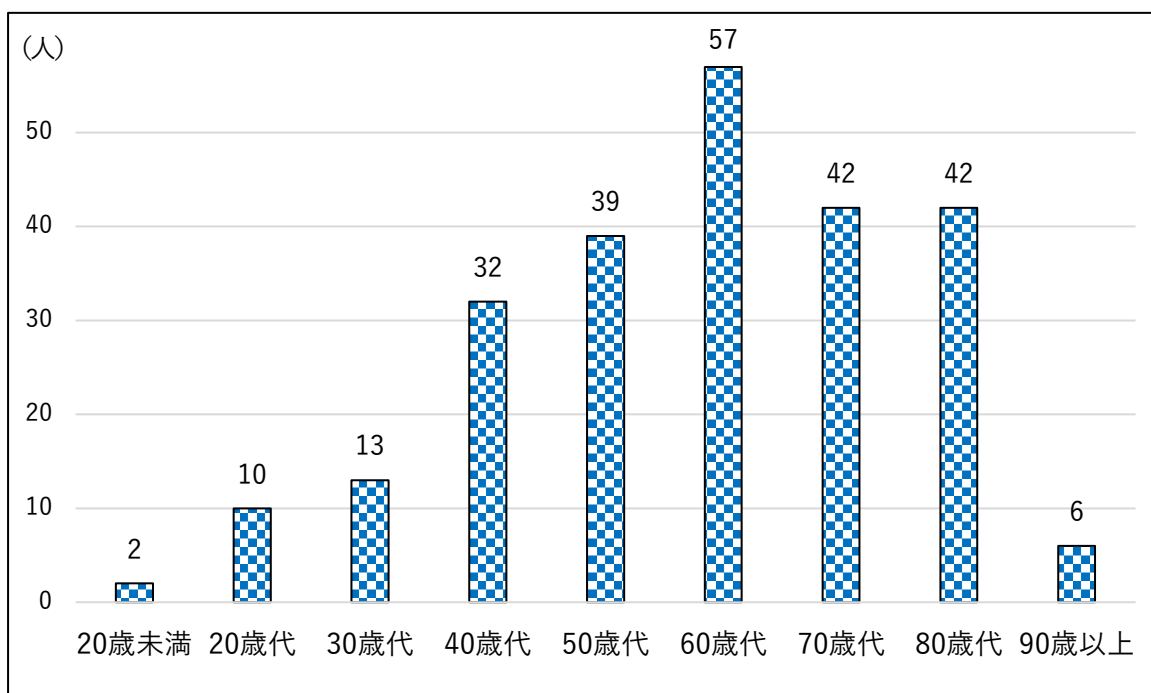
詳細を下記のとおりまとめましたので公表します。

※ 小数点を含むものは、小数第二位を四捨五入した数値。

1 年代別の救急搬送人員（2015年から2019年まで）

過去5年間の雪などによる転倒事故における救急搬送人員を年代別にみると、「60歳代」が57人（23.5%）で最も多く、次いで「70歳代」と「80歳代」が42人（17.3%）と続きます。

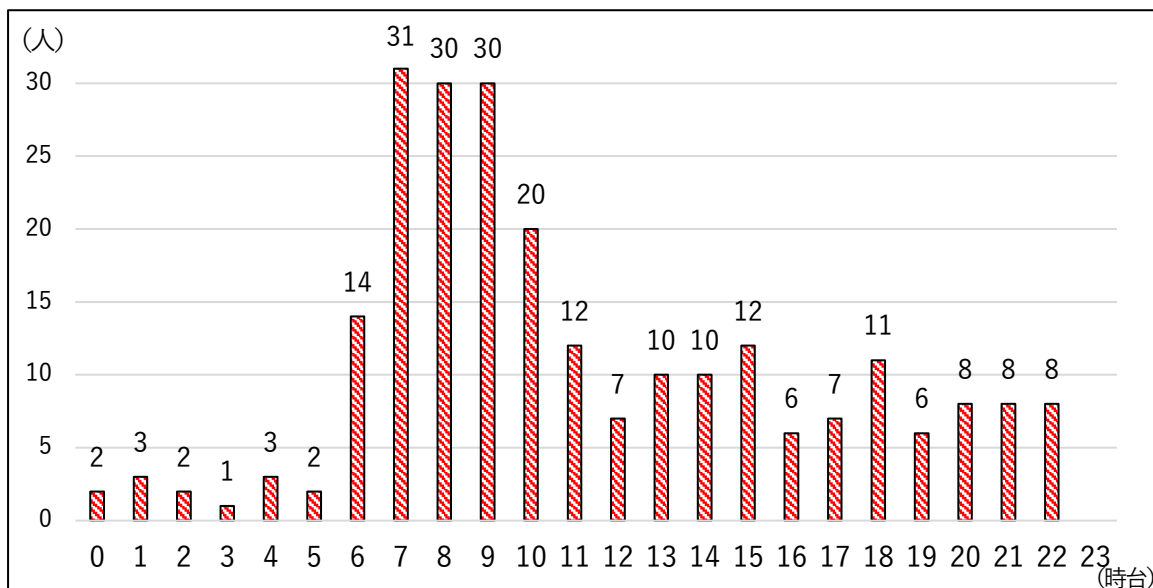
「60歳代」以上で全年齢の6割以上を占めている一方で、「40歳代」が32人（13.2%）、「50歳代」が39人（16.0%）と少なくないことが分かります。



2 時間帯別の救急搬送人員（2015年から2019年まで）

過去5年間の雪などによる転倒事故における救急搬送人員を救急要請時間別にみると、「7時台」が31人（12.8%）で最も多く、次いで「8時台」と「9時台」が30人（12.3%）と続き、午前中に集中していることが分かります。

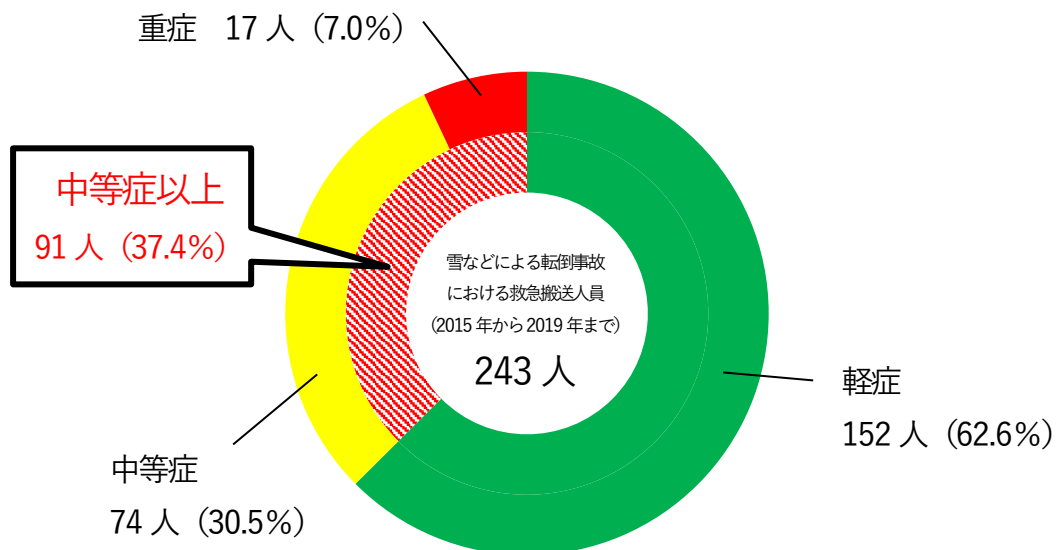
これは積雪や早朝の冷え込みによる路面の凍結状況とともに、朝の出勤や外出時などの慌ただしさなどが影響していると推測されます。



3 傷病程度別の救急搬送人員と割合（2015年から2019年まで）

過去5年間の雪などによる転倒事故における救急搬送人員を傷病程度別にみると、「軽症」が152人（62.6%）で最も多く、次いで「中等症」が74人（30.5%）、「重症」が17人（7.0%）と続きます。

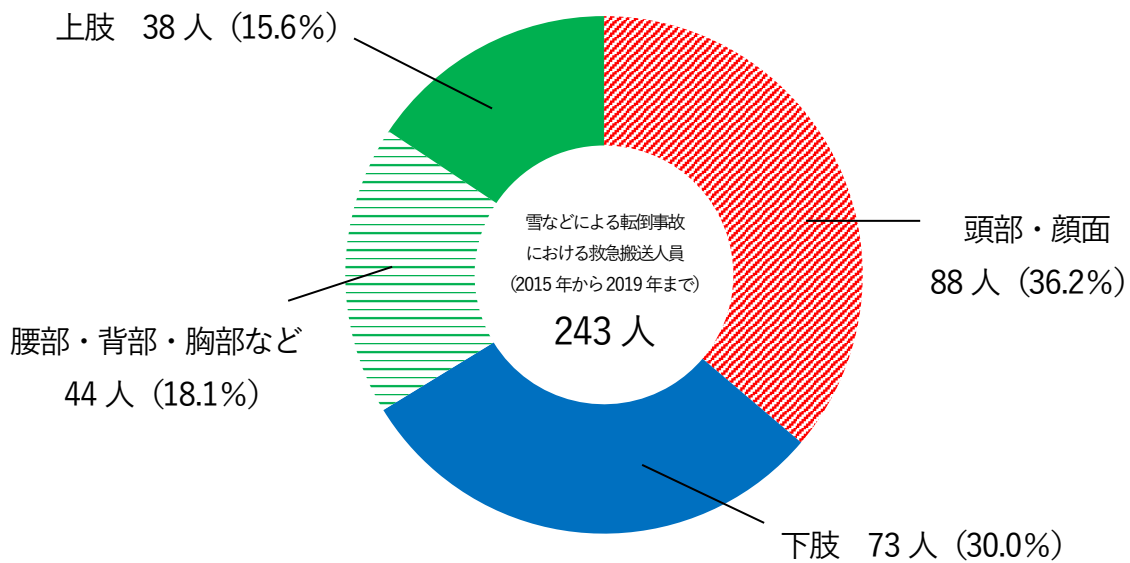
「中等症」以上の傷病程度で37.4%を占めていることが分かります。



4 受傷部位別の救急搬送人員と割合（2015年から2019年まで）

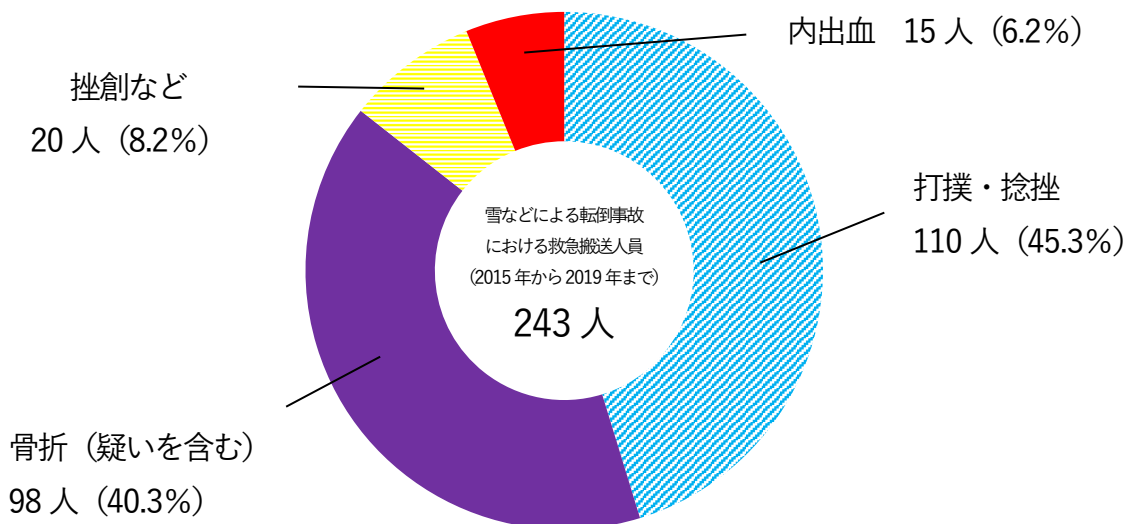
過去5年間の雪などによる転倒事故における救急搬送人員を受傷部位別にみると、「頭部・顔面」が88人（36.2%）で最も多く、次いで「下肢」が73人（30.0%）、「腰部・背部・胸部など」が44人（18.1%）、「上肢」が38人（15.6%）と続きます。

雪や凍結路面では、思いもよらないタイミングで転倒するため、とっさの受け身がとれずに受傷していると推測されます。



5 症状別の救急搬送人員と割合（2015年から2019年まで）

過去5年間の雪などによる転倒事故における救急搬送人員を受傷部位別にみると、「打撲・捻挫」110人（45.3%）で最も多く、次いで「骨折（疑いを含む）」が98人（40.3%）、「挫創など」が20人（8.2%）、「内出血」が15人（6.2%）と続きます。



6 予防法

- ◇ 天気予報などで事前に情報収集し、時間に余裕を持って行動しましょう。
- ◇ 靴は滑りにくいものを選びましょう。
- ◇ 慌てることなく、足元に気を配りゆっくり歩きましょう。
- ◇ 日陰となっている（なっていた）場所や橋の上は滑りやすいので、特に注意しましょう。
- ◇ 傾斜がある場所や坂道は、足を滑らせて後方に転倒してしまうことがあるので注意しましょう。
- ◇ 飲酒後は転倒しやすいので注意しましょう。